

平成 29 年 7 月 定例教育委員会々議録

1 日 時 平成 29 年 7 月 28 日 (金) 午後 1 時 30 分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室 301

3 出席委員の氏名

教育長	仲野 孝	教育長職務代理者	齋藤 和夫
委員	黒川 優子	委員	中野 信男
委員	秦 久美子		

4 欠席委員の氏名

委員 山崎 克弥

5 説明のため出席した職員

教育次長	山田 公一	主 幹	長谷川 智
学校教育課長	堀 克彦	子育て支援課長	白井 健次
社会教育課長	宮路 一規	統括指導主事	杵 淵 貢

6 本委員会書記

学校教育課 太田 和行 他 2 名

7 傍聴人

2 名

8 会議に付議した事件

諸報告

- (1) 行事報告及び行事予定
- (2) 教育長報告
- (3) 寄附報告

専決処分の報告について

報告第 9 号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題

協議第 7 号 新規共催・後援申請について

8 その他

(1) 燕市西部学校給食センター調理配送等業務委託について

9 閉 会

会議録

別紙のとおり

1. 開 会 宣 言 午後1時30分～

2. 会議録署名委員の指名 中 野 信 男 委 員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定について

〈各課長が報告〉

○委員（黒川 優子）

昨年、広島平和記念式典派遣事業報告会へ参加したが、素晴らしい体験をしたことがわかる報告会だった。この事業には各中学校から1人が選ばれているが、どういう基準で選抜されているのか。また、式典にこだわらず、色々と感じる年代なので、多くの生徒たちに広島で貴重な体験を行ってほしい。

○学校教育課長（堀 克彦）

学校からの推薦者は、立候補ではなく校長推薦によるものであり、主として生徒会を中心として選抜されることが多いようである。派遣する生徒の増員については、式典全体の参加者が増えており、年々宿泊施設を確保することが難しくなっていることから人数を増やすことは厳しいのが現状である。

修学旅行で訪れたり、学校での報告会で広島の原爆にふれる機会を持つことはできるのでそういった機会を活用し広げていきたい。

○委員（中野 信男）

A L Tの退任は任期が切れたことによるものなのか。

○学校教育課長（堀 克彦）

任期が切れたことによるものである。次のA L Tが8月の中旬に来るので、その際はまた紹介をしたい。

○教育次長（山田 公一）

国のJ E TプログラムによってA L Tの招致をしており、基本的には1年更新だが、最長が5年となっている。今回退任されるA L Tのフックさんは最長の5年の活動をしていただいた。

(2) 教育長報告

〈仲野教育長が以下のとおり報告〉

## 1 はじめに

- 7月25日(火)から市内全小中学校が夏季休業に入った。校長会では、熱中症や交通事故、休み明けの児童生徒の変化や見守りについて指導した。
- 今月の大雨で災害対策本部を2度設置したが、一部の学校で保護者による送迎や雨漏りの報告があったものの、大きな被害はなかった。
- 今年の夏も、姉妹都市ダンディ村への生徒の派遣、広島市での平和記念式典への生徒の派遣、Jack & Betty 親善大使海外派遣、英会話教室、長善館学習塾宿泊体験など、児童生徒が様々な経験や体験する行事が多く実施されるので、その成果を期待している。委員の皆さまには、報告会への参加も願います。

## 2 ふれあいトーク 2017

- これまで4会場(全6会場のうち1会場は大雨で中止)で実施している。第1部では「燕市が直面している主要課題」を市長が説明し、第2部は参加された市民との意見交換を実施している。
- これまでの教育委員会関係の質問は、保育園の民営化に向けた今後の対応や少子化に伴う小中一貫校、学校の統廃合などの見通しや園舎の老朽化などについてであった。
- 職員の窓口対応が以前に比べて格段によくなったとの言葉もいただいた。

## 3 平成30年度～平成32年度県立高校等再編整備計画の公表

- 平成29年7月6日に『県立高校等再編整備計画』が公表され。市内の高校の具体的な再編整備の計画はなかったが、同計画に基づき、今後は「小規模校のあり方」や「地域と連携した特色あるコースの設置」などについて具体的な取り組みを進めることになる。
- 各高校における教育の特色化にあたっては、燕市からの提案等も踏まえて校長が取り組みを進めると記述されていることから、具体的な協働作業については、高校内での議論を踏まえて9月を目途に開始したいと考えている。
- まずは、次年度の生徒募集につなげるため、9月から中学生向けの生徒募集用パンフレットを協働で作成したい。10月末には、各高校等の平成30年度の募集学級数が正式に発表されるので、それに合わせて近隣中学校へ配布できるよう準備を進めたい。

## 4 7月行事予定より

### (1) 夏祭りでの園児、児童生徒の活躍

- 飛燕夏まつりや分水まつり(7/15・16)、吉田まつり(7/21・22)では、園児や児童生徒が音楽パレードや民謡流し、山車巡業などで活躍してくれた。

- 少子化が進展する中、地域の子どもたちが伝統を受け継ぎ、ふるさとへの愛着を高めることは、将来的に地域の大きな財産となると感じた。
- (2) 平成 29 年度第 1 回教育支援委員会 (7/20)
- 小中学校の校長や教諭、県立吉田病院の医師、及び社会福祉課の職員などで構成する標記委員会を開催した。
  - 市では、社会福祉課を中心にして、乳幼児期から社会人になるまでの成長過程において、特に発達特性をもつ子どもたちへの支援を継続していくための体制づくりを始めている。
  - 本委員会は、幼稚園や保育園、認定こども園から小学校への就学や、小学校から中学校への就学、さらに中学校卒業までを一貫して支援していくための意見交換や情報交換の場であり、教員にとっても自校に受け入れるにあたって児童生徒の状況を事前に把握する貴重な研修である。
  - 児童生徒数が減少する中、自閉症スペクトラムや ADHD など、特別な支援が必要と思われる児童生徒数は増加している傾向にあり、子どもたち一人一人の状況を把握し、合理的な配慮を進める必要がある。
- (3) 平成 29 年度新潟県市町村教育委員会連合会定期総会・研修会 (7/21)
- 十日町市のあてま高原リゾートで行われた標記総会・研修会に齋藤教育委員とともに出席した。総会では、平成 29 年度の役員の報告と平成 28 年度の事業報告や収支決算などの議事がありすべて承認された。
  - 研修会では、十日町市が「クロアチア共和国を相手国としたホストタウン推進事業」を、津南町が「強くてやさしい子どもを育てる津南の教育」と題して実践発表があり、特に、十日町市の取り組みは本市のホストタウン事業に大変参考になる内容であった。
- (4) 噛むから始まる食育研修会 (7/24)
- 日本歯科大学新潟生命歯学部で食育健康科学講座を担当する中野智子客員教授から「噛むから始まる食育 ～子どもたちに伝えたい正しい食習慣と食の知識」と題して講演をいただいた。
  - 講演では、食生活の現状と問題点やよだれ(だ液)のはたらき、食環境により大きく変わった栄養成分など、示唆に富んだ話を聴くことができ、幼児のうちから正しい食習慣が大切であることを学ぶことができた。
- (5) イクボス研修会 (7/25)
- NPO 法人ファザーリング・ジャパンの安藤哲也代表理事から「今、なぜイクボスなのか? ～中小企業がワーク・ライフ・バランスに取り組み業績を上げている! それは何故なのか?～」と題して講演をいただき、その後職員や企業の方とグループワークを実施した。
  - 働き方改革が求められる中、企業が抱える課題として長時間労働や業務の属人化などがあげられる。解決のポイントとしては、多様なライフスタイル

の尊重や時間に対するコスト感覚、働いた時間＝成果ではないなどの意識を上司がもち、自ら行動することが大切であることを学んだ。

- 本市では、昨年10月末に三役及び課長以上の職員がイクボス宣言を行い、市内事業所にイクボスを普及することに努めてきた。今後とも、職員への理解促進と意識啓発の研修会などにより、職員一人一人のワーク・ライフ・バランスの実現を目指していきたい。また、校長会や教頭会をとおして教職員へ伝え、時間外勤務時間の軽減に繋げていきたい。

○委員（中野 信男）

吉田高校、分水高校がともに定員割れをしているが、生徒だけでなく、先生や保護者にもまずは学校選択の認識を変えて欲しい。小規模でも良い企業があるように、有名校にこだわらない指導をする仕組みはできないものか。学校の実態が先生や保護者や生徒本人にきちんと伝わっていないと思う。本当に良い学校であれば有名校でなくとも自然に口伝えなどで生徒が集まると思う。学校が充実しなければ一時的なPRだけをしていても効果は低いと思う。各高校にも学校の充実を考えてもらう必要がある。普通の学校運営だけでは今後は厳しいと思うので、何かもうワンステップ上がるような取り組みをしていかないと今後は難しいと思う。意識はあっても実行が伴わなければ最終的に廃校となってしまう。

○委員（黒川 優子）

新しいことを始めるよりもまずは先生の意識だと思う。保護者が行かせたくない学校にならないためには、教えたいという先生がいると学びたいという生徒が集まってくる。まずは先生が変わって学校が変われば生徒も変わると思う。

また、特別支援が必要な児童が増えているのはどういった理由が考えられるか。

○主幹（長谷川 智）

特に軽度の発達障がいが増えている。一般的には出生時に小さく産まれることで脳に障がいを持つ事が原因の一つとして考えられている。また、生まれた後の生活環境の変化によって脳に弊害が出る場合もあると言われている。

(3) 寄附報告

2件の寄附報告について

〈宮路社会教育課長が報告〉

4. 専決処分の報告について

報告第 9 号 共催・後援の教育長専決報告について  
5 件の後援について  
〈堀学校教育課長が説明〉

5. 協議題

協議第 7 号 新規共催・後援申請について  
1 件の共催、5 件の後援について  
〈No. 1、5 について白井子育て支援課長が説明〉  
〈No. 2、3、4、6 について宮路社会教育課長が説明〉

審議の結果、全員異議なく承認された。

6. その他

(1) 燕市西部学校給食センター調理配送等業務委託について  
〈堀学校教育課長が説明〉

7 閉 会 午後 2 時 30 分

教 育 長 仲野 孝 \_\_\_\_\_

会議録署名委員 中野 信男 \_\_\_\_\_

会議録調整者 竹田 亮子 \_\_\_\_\_